

浜田漁港周辺エリア活性化計画策定に当たって

1. 計画策定の背景と目的

浜田漁港は、島根県では最大の水揚量を誇る漁港である。浜田漁港の歴史は古く、応神天皇の世（270年頃）に始まるが、浜田漁港周辺エリアが水産の町として急激に発展したのは明治に入ってからであり、特に1952年（昭和27年）に第3種漁港、1969年（昭和44年）に特定第3種漁港に指定され発展し、今日では西日本有数の漁業基地に成長した。本地区の漁業は、古くから底魚を対象とする沖合底びき網業と浮魚を対象とした中型まき網漁業が基幹漁業であり、その他には、一本釣り、定置網漁業等が営まれており、陸揚げされる魚種は多岐にわたっている。

しかし、水揚量の減少、魚価の低迷、市場施設の老朽化等により、全国の水産業を取り巻く情勢は厳しい状況にあり、浜田市でも水産業の発展を図るために種々の課題の克服が必要な局面を迎えている。

浜田市では、水産物のPR施設である「しまねお魚センター」の低迷や「公設水産物仲買売場」の老朽化、沖合底びき網漁船2ヶ統の事業停止等、種々の課題がある一方で、衛生管理に対応した浜田水産物地方卸売市場の高度衛生管理型荷さばき所や「山陰浜田港公設市場」の整備等、活性化に向けた取組が進んでおり、安全・安心な水産物の供給や水揚量の増加、魚価の安定と向上が期待される。

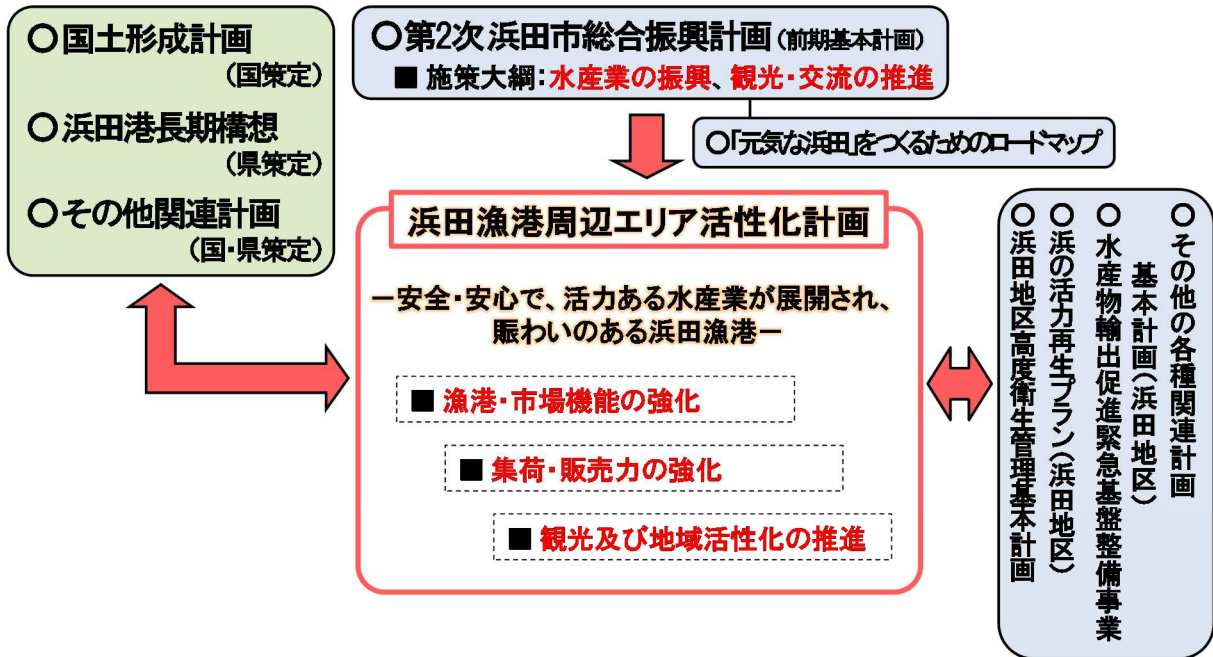
この機会をチャンスとして捉え、過渡期を迎える「浜田漁港周辺エリア」を、多くの方が訪れる活気のあるエリアとするために、このエリアを核とした水産業の将来ビジョンを描き、具体的施策に取り組む必要がある。

このような情勢のもと、浜田市では、関係者による「浜田漁港周辺エリア活性化検討委員会」（以下、「検討委員会」）を立ち上げ、浜田漁港周辺エリアの活性化策について検討を重ね、本計画を策定した。

2. 計画の位置づけ

浜田漁港周辺エリア活性化計画（以下、「本計画」）は、「第2次浜田市総合振興計画（前期基本計画）」（平成28年3月策定）を上位計画とし、「『元気な浜田』をつくるためのロードマップ」、「浜田地区高度衛生管理基本計画」、「浜の活力再生プラン（浜田地区）」等関連する諸計画を踏まえて策定している。

■ 本計画と上位計画との関係



■ 本計画に関連する主な上位計画の整理

計画等の名称	計画策定主体	具体内容
第2次 浜田市総合振興計画 (前期基本計画：H28年～R3年)	市	7つのまちづくり大綱が掲げられており、そのうち、「活力ある産業を育て、雇用をつくるまち」の中で「水産業の振興」が挙げられている。また、既存産業とのネットワーク化をキーワードとした「観光・交流の推進」を重要な柱としている。
「元気な浜田」をつくる ためのロードマップ	市	第2次総合振興計画のまちづくり大綱のうち、特に重点的に取組むべき事業をはじめ、市政振興運営に係る重要な事項について、具体行動計画を示している。 「水産業の活性化」の項目では、「山陰浜田港水産物の販路拡大対策」、「しまねお魚センターの活性化」、「漁港エリアの活性化対策（瀬戸ヶ島埋立地活用）」等について、具体施策及び成果目標を設定している。
浜田地区高度衛生管理基本計画	市	水産物の高度な衛生管理を実現するための基本的な考え方等を示した計画であり、陸揚げから搬出までの一貫した衛生管理についての方針を定めている。
浜の活力再生プラン（浜田地区）	県	漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指し、漁業者が主体となり、5年間で具体的な取組を実行するために策定された。また、関連する施策（補助事業等）の優先採択等が受けられる。
水産物輸出促進緊急基盤整備 事業基本計画（浜田地区）	県	浜田漁港の水産物の輸出促進を図るための基本的な考え方等を示した計画であり、施設整備等による体制構築についての方針を定めている。
浜田港長期構想	県	浜田港の担うべき役割を整理し、長期的視点（20～30年後）に立った、島根県による港湾整備の施策等を検討している。
国土形成計画（全国計画）	国	国土の利用、整備及び保全を推進するための総合的かつ基本的な計画であり、この計画に基づき、「浜田市国土利用計画」が策定されている。

資料：各種計画の内容をもとに作成

1. 浜田漁港エリアを取り巻く現状と課題

1-1. 浜田市の概要

1-1-1. 浜田市の現況

浜田市は、島根県西部（石見地方）の中央に位置しており、東西 46.4km、南北 28.1km、面積 690.68km² を誇る、県西部の中核都市である。2005 年（平成 17 年）に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村及び三隅町の 5 市町村が合併し、現在の浜田市が誕生した。

浜田市は、「しまね海洋館アクアス」や伝統芸能「石見神楽」、温泉等の豊かな自然を活かした多様な地域資源を有しているほか、県内唯一の国際貿易港かつ国土交通省の日本海側拠点港¹にも選定されている浜田港の整備も充実している。

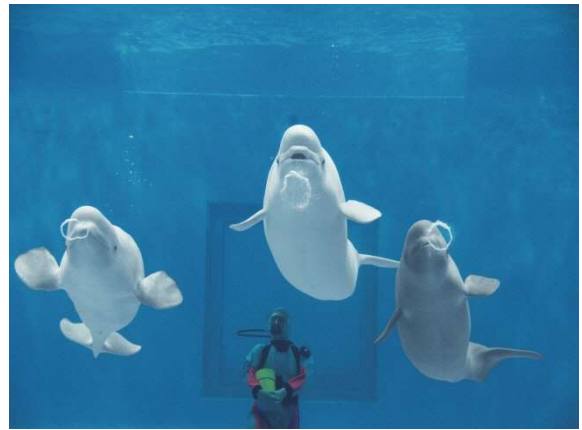
また、「浜田漁港」を中心とした水産業が市の基幹産業を担っており、地域振興や文化振興の面でも重要な役割を担っている。



■ 石見神楽



■ しまね海洋館アクアス



¹中国・韓国・ロシア等日本海周辺の対岸諸国の経済発展等を我が国の成長に取り込みつつ、日本海側各港湾の役割の明確化と港湾間の連携を図ることにより、日本海側港湾全体の国際競争力を強化し、ひいては、日本海側地域の経済発展に貢献すること、及び東日本大震災を踏まえ、太平洋側港湾の代替機能の確保により災害に強い物流ネットワークを構築することを目的として、国土交通省が機能別に募集したもの。

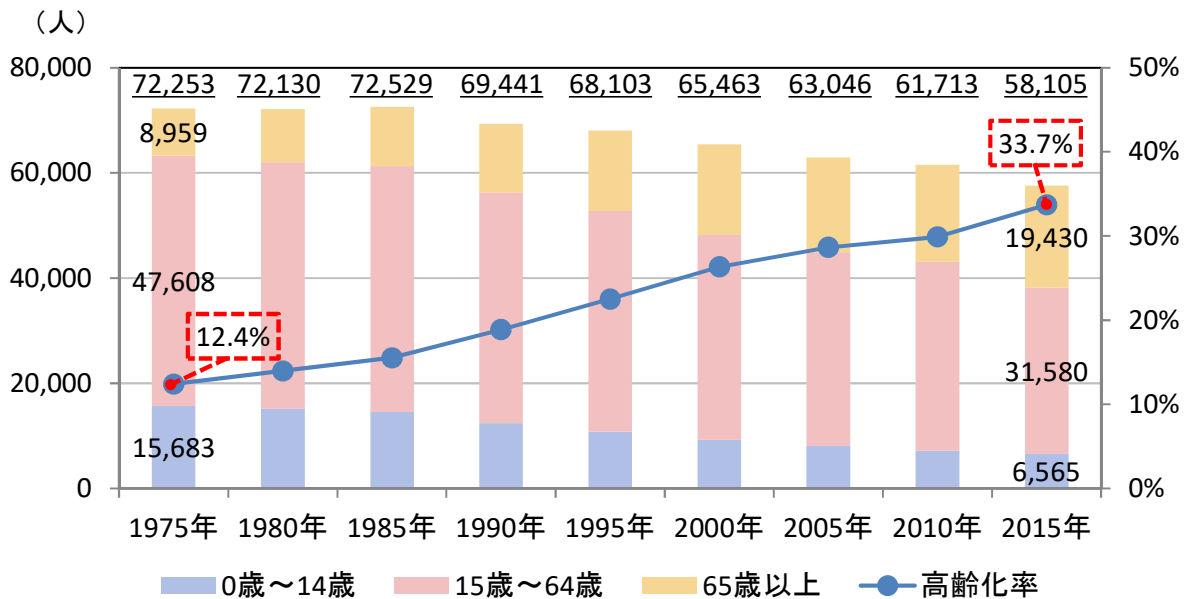
1-1-2. 人口動態

①人口および高齢化率の推移

2015年（平成27年）の国勢調査によれば、浜田市の総人口は58,105人となっており、年齢階層別に見ると、0歳～14歳の年少人口が6,565人、15歳～64歳の生産年齢人口が31,580人、65歳以上の高齢者人口が19,430人となっている。

1975年（昭和50年）以降の人口推移を見ると、1985年（昭和60年）の72,529人をピークに、1990年（平成2年）以降は人口減少が続いている。近年では、年少人口及び生産年齢人口の減少が進行している一方で、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあり、2015年（平成27年）時点で、高齢化率は33.7%に達している。

■ 浜田市の年齢階層別の人口動態及び高齢化率



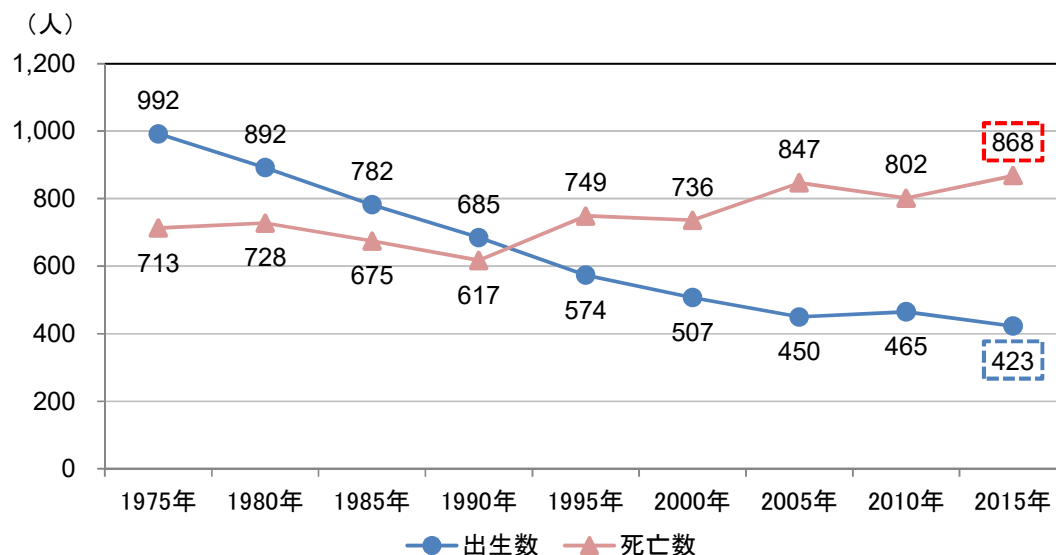
資料：国勢調査（昭和50年～平成27年）

注：総人口には、年齢不詳者も含んでいるため、年齢階層別人口の合計と一致しない場合があります。

②自然動態及び社会動態の動向

浜田市における2014年（平成26年）の出生数は423人であり、死亡数は868人となっている。1990年（平成2年）までは、出生数が死亡数を上回っていたものの、1995年（平成7年）以降は、死亡数が出生数を上回り、自然減の状態が続いている。

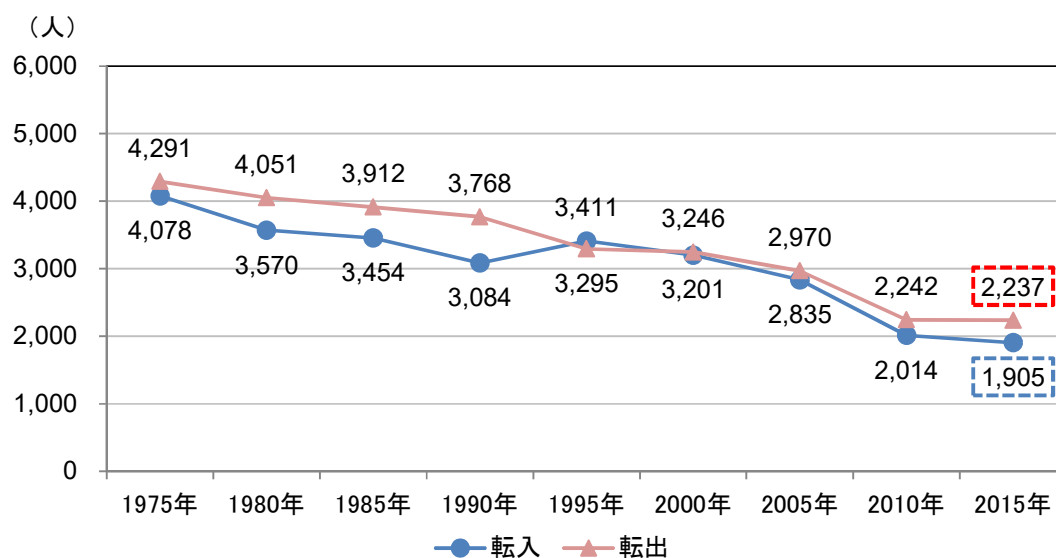
■ 浜田市における自然動態の動向



資料：「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より

また、社会動態の動向を見ると、人口減少等に伴い、転入・転出ともに次第に減少傾向にある。社会増減では、1990年（平成2年）に社会減が最大となり、1995年（平成7年）には、一時的に社会増となったものの、その後は、再び社会減の状態が続いている。

■ 浜田市における社会動態の動向



資料：「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より

1-1-3. 産業構造

国勢調査（平成 27 年）によると、浜田市の総就業人口は 28,257 人となっており、産業別にみると、第一次産業が 2,013 人（7.1%）、第二次産業が 5,830 人（20.6%）、第三次産業が 20,046 人（70.9%）、その他が 368 人（1.3%）となっている。

第一次産業における漁業の就業人口は 271 人（1.0%）で、2017 年（平成 29 年）における浜田漁港の水揚げは、56.5 億円となっている。

また、農林水産省が 2013 年（平成 25 年）に発表した漁業センサスでは、市内の水産加工場が 50 か所、就業者が 816 人となっており、第二次産業における製造業の就業人口（3,287 人）のうち、浜田漁港で水揚げされる原料等を使用した水産物の加工業に従事している労働者が、多くの割合を占めていることが分かる。

■産業別就業人口割合

	職業分類	就業人口（人）	割合（%）
第一次産業	農業，林業	1,742	6.2%
	うち農業	1,604	5.7%
	漁業	271	1.0%
	第一次産業合計	2,013	7.1%
第二次産業	鉱業，採石業，砂利採取業	24	0.1%
	建設業	2,519	8.9%
	製造業	3,287	11.6%
	第二次産業合計	5,830	20.6%
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	286	1.0%
	情報通信業	181	0.6%
	運輸業，郵便業	1,354	4.8%
	卸売業，小売業	4,284	15.2%
	金融業，保険業	546	1.9%
	不動産業，物品賃貸業	312	1.1%
	学術研究，専門・技術サービス業	681	2.4%
	宿泊業，飲食サービス業	1,437	5.1%
	生活関連サービス業，娯楽業	1,099	3.9%
	教育，学習支援業	1,418	5.0%
	医療，福祉	4,665	16.5%
	複合サービス事業	475	1.7%
	サービス業（他に分類されないもの）	1,593	5.6%
	公務（他に分類されるものを除く）	1,715	6.1%
	第三次産業合計	20,046	70.9%
その他	分類不能の産業	368	1.3%
就業人口合計			28,257

資料：国勢調査（平成 27 年）

1. 浜田漁港エリアを取り巻く現状と課題

島根県内の他自治体と比較しても、水産加工場数・就業者数ともに県内第1位の規模を誇っており、水産加工業が浜田市における主要な産業のひとつとなっていることが分かる。

■水産加工工場数及び従業員数

自治体名	工場数（箇所）	県内順位	従業員数（人）	県内順位
松江市	32	2位	517	2位
浜田市	50	1位	816	1位
出雲市	31	3位	337	3位
益田市	2	9位	-	-
大田市	18	4位	196	5位
安来市	1	10位	-	-
江津市	4	7位	206	4位
雲南市	1	10位	-	-
奥出雲町	-	-	-	-
飯南町	-	-	-	-
川本町	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-
邑南町	1	10位	-	-
津和野町	1	10位	-	-
吉賀町	-	-	-	-
海士町	6	6位	53	8位
西ノ島町	3	8位	82	6位
知夫村	-	-	-	-
隠岐の島町	9	5位	81	7位
島根県全体	159	-	2432	-

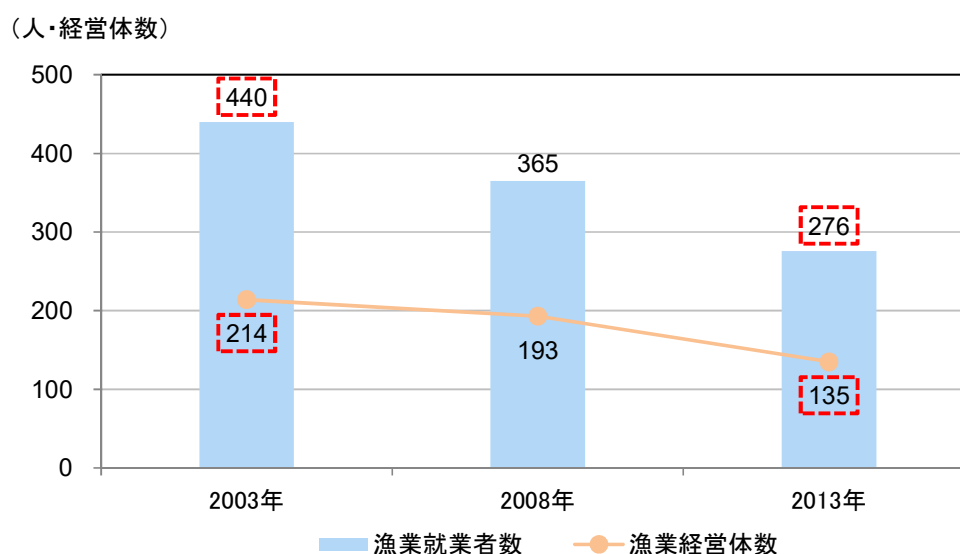
資料：漁業センサス（平成25年）

1-2. 浜田市の水産業の現状と課題

1-2-1. 漁業就業者・経営体の推移

漁業センサス（農林水産省）によると、2013年（平成25年）時点で、市内の漁業従事者数は276人、漁業経営体数は135経営体となっている。過去の数値を見ると、2008年（平成20年）では、漁業従事者数が365人、漁業経営体数が193経営体、2003年（平成15年）では、漁業従事者数が440人、漁業経営体数が214経営体となっており、漁業従事者数、漁業経営体数ともに減少傾向にあることが分かる。

■ 漁業就業者・経営体の推移



資料：農林水産省 漁業センサス（平成15-25年）

注：2003年の値は、旧浜田市と旧三隅町の数値を合計

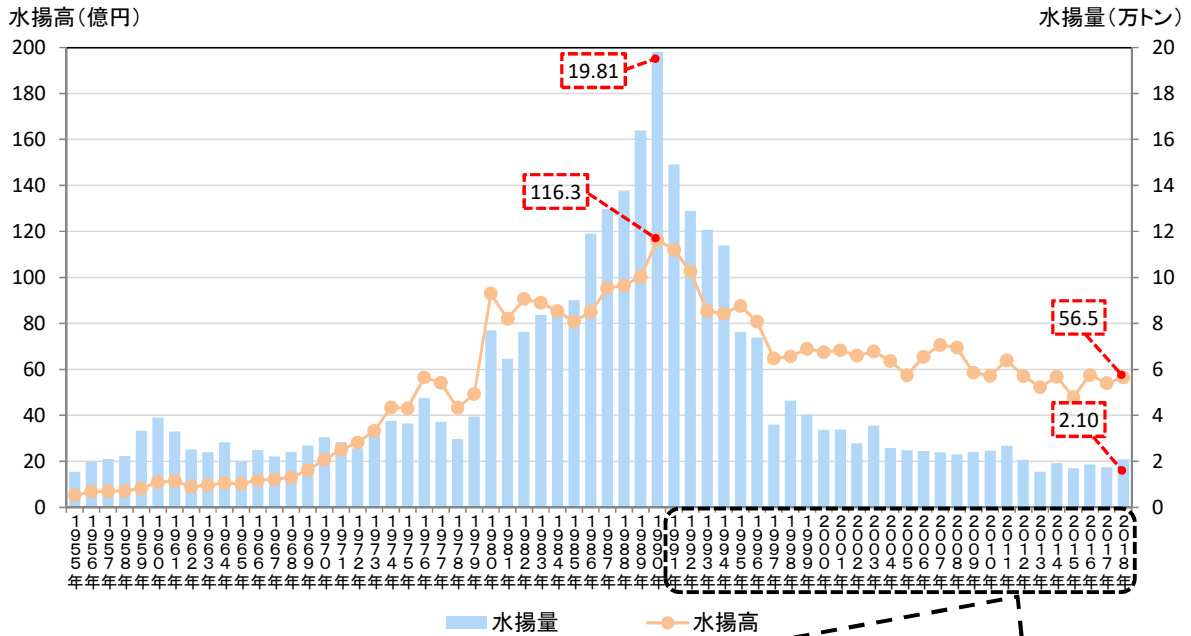
1-2-2. 水揚げ動向

2018年（平成30年）の浜田漁港の水揚量は約2.1万トン、水揚高は約56.5億円であった。1955年（昭和30年）以降の推移を見ると、1980年代までは、水揚量、水揚高ともに概ね増加傾向にあり、1990年（平成2年）時点では、水揚量は約20万トン、水揚高は約116億円で過去最高を記録している。

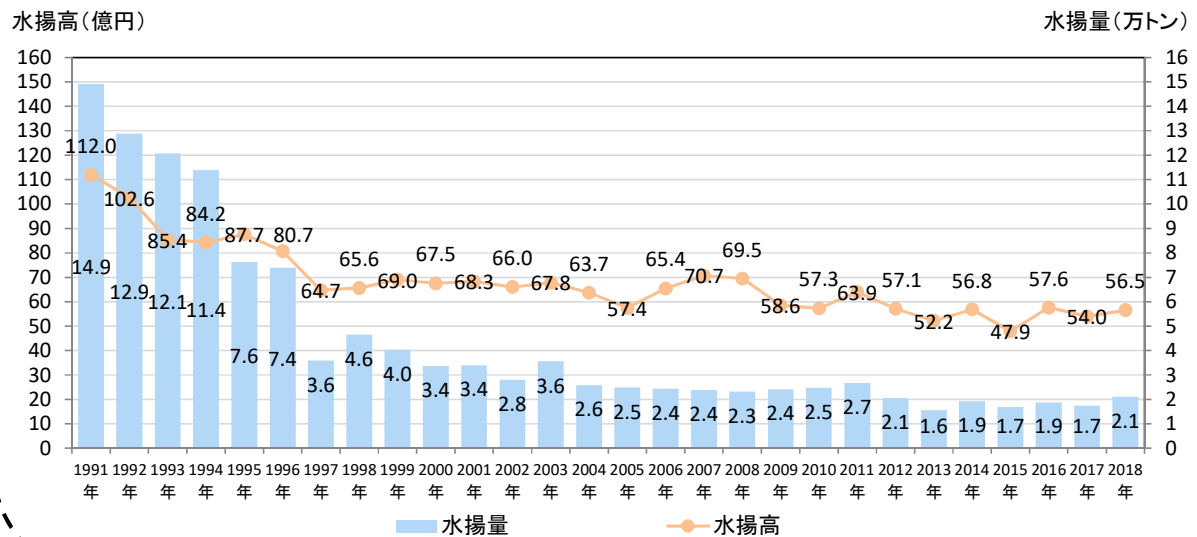
しかし、1991年（平成3年）以降は、水揚量、水揚高ともに減少傾向にあり、とりわけ、1997年（平成9年）以降は、水揚量が5万トン未満、水揚高は60億円前後で推移しており、最盛期に比べて大幅に減少している。

1. 浜田漁港エリアを取り巻く現状と課題

■ 浜田漁港における水揚量及び水揚高の推移



1991年以降・特出

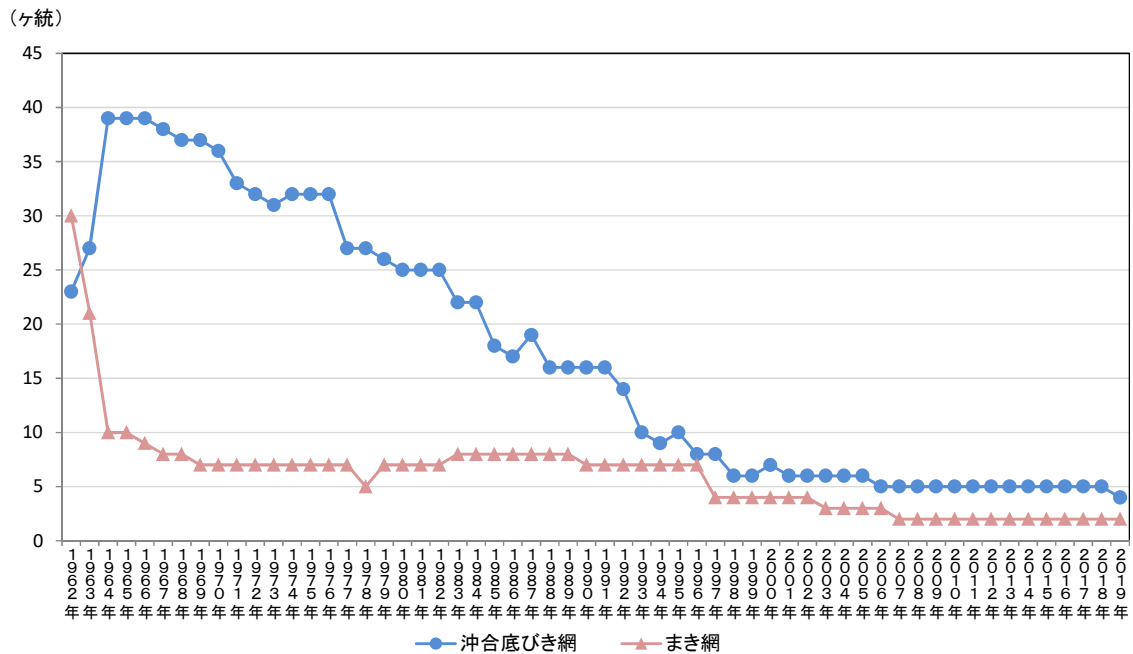


資料：浜田市水産業振興協会調べ

浜田漁港に所属する沖合底びき網とまき網の船団数は、2019年（令和元年）時点で、沖合底びき網は4ヶ統、まき網は2ヶ統である。推移をみると、沖合底びき網の船団は、1964年（昭和39年）の39ヶ統をピークに減少傾向が続き、2006年（平成18年）に5ヶ統となっている。近年は船団数に変化はなかったが、2019年（令和元年）に1ヶ統減少している。

まき網の船団数は、1962年（昭和37年）は30ヶ統であったが、1964年（昭和39年）には10ヶ統となり大幅に減少している。それ以降も増加した時期はあったものの、全体としては減少傾向であり、2007年（平成19年）に2ヶ統となっている。2007年（平成19年）以降は船団数に変化はない。

■ 浜田市における沖合底びき網とまき網の船団数の推移

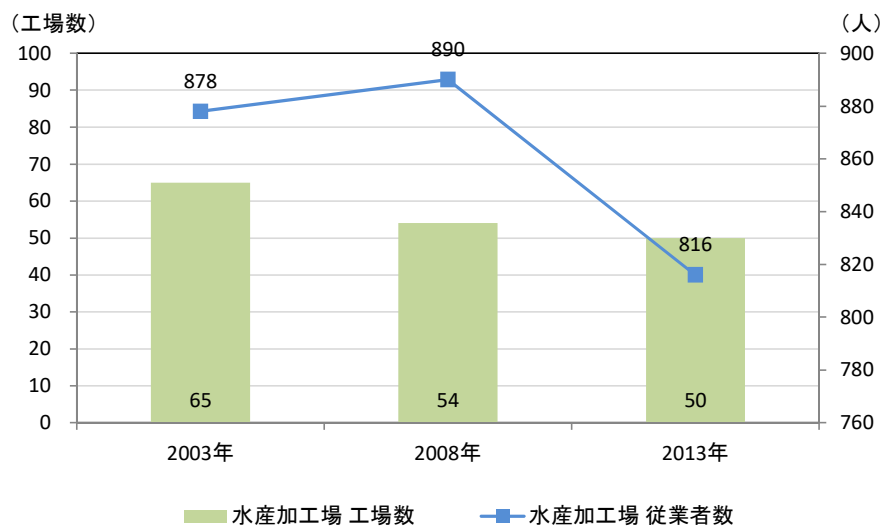


資料：島根県農林水産統計年報及び浜田市水産業振興協会調べ

1-2-3. 水産加工業の動向

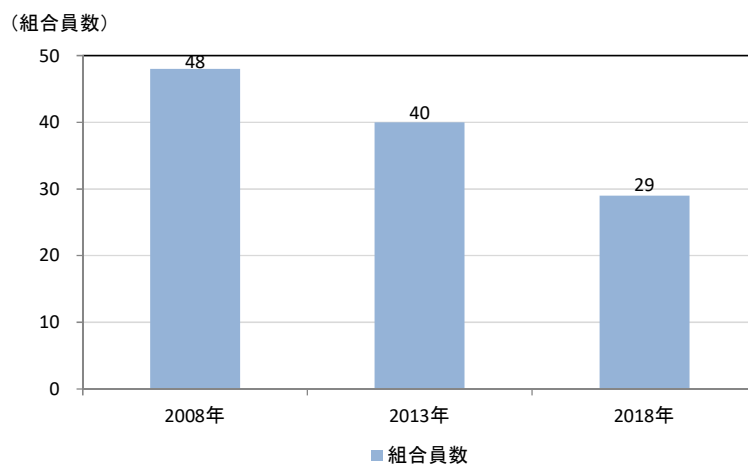
2013年（平成25年）時点で、水産加工場数は50工場で、従業員数は816人である。推移をみると、水産加工場数は2003年（平成15年）から減少傾向にあり、10年間で15工場が減少している。また、水産加工場の従業員数も減少傾向にあり、10年間で62人が減少している。

■ 水産加工場数及び従業員数の推移



資料：漁業センサス（平成15年、平成20年、平成25年）

■ 加工事業者数の推移

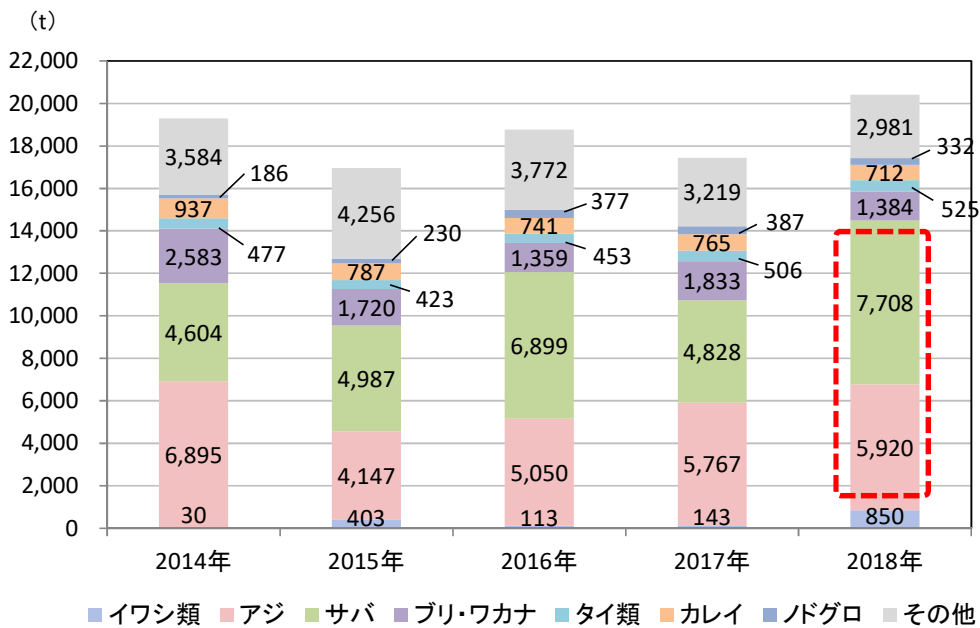


資料：浜田魚商協同組合より

1-2-4. 主要魚種の動向

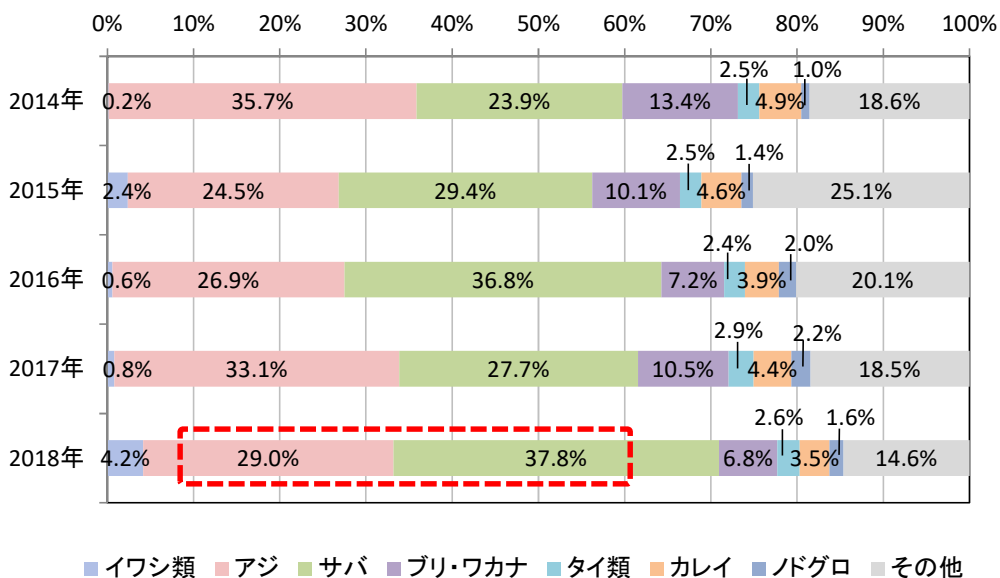
主な魚種別に水揚量を見ると、2018年（平成30年）は、サバの水揚量が約7,700トンで最も多く、次いで、アジの水揚量が約6,000トンとなっている。また、サバ、アジを合わせた水揚量は、全体の7割近くを占める結果となっている。過去5年間の魚種別水揚量を見ても、サバ、アジの水揚量は各年ともに全体の半数以上を占めており、浜田漁港における主要な漁獲対象種であることが分かる。

■ 魚種別水揚量



資料：浜田市水産業振興協会調べ

■ 魚種別水揚割合



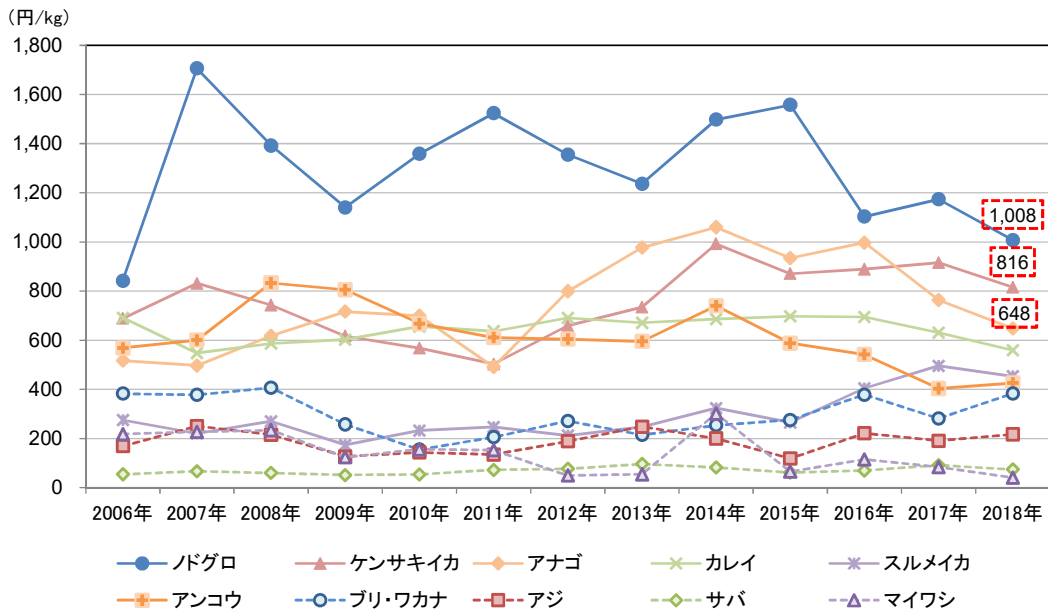
資料：浜田市水産業振興協会調べ

1. 浜田漁港エリアを取り巻く現状と課題

また、魚種別の1kg当たりの単価を見ると、2018年（平成30年）は、ノドグロの単価が1,008円で最も高く、次いで、ケンサキイカが816円、アナゴが648円と続く。

近年では、「どんちっち」ブランドの浸透等により、一部の魚種では単価の上昇が見られるが、全体としては魚価の低迷が続いており、水揚量の維持とともに魚価向上も課題となっている。

■ 主要魚種別の単価の推移



資料：浜田市水産業振興協会調べ

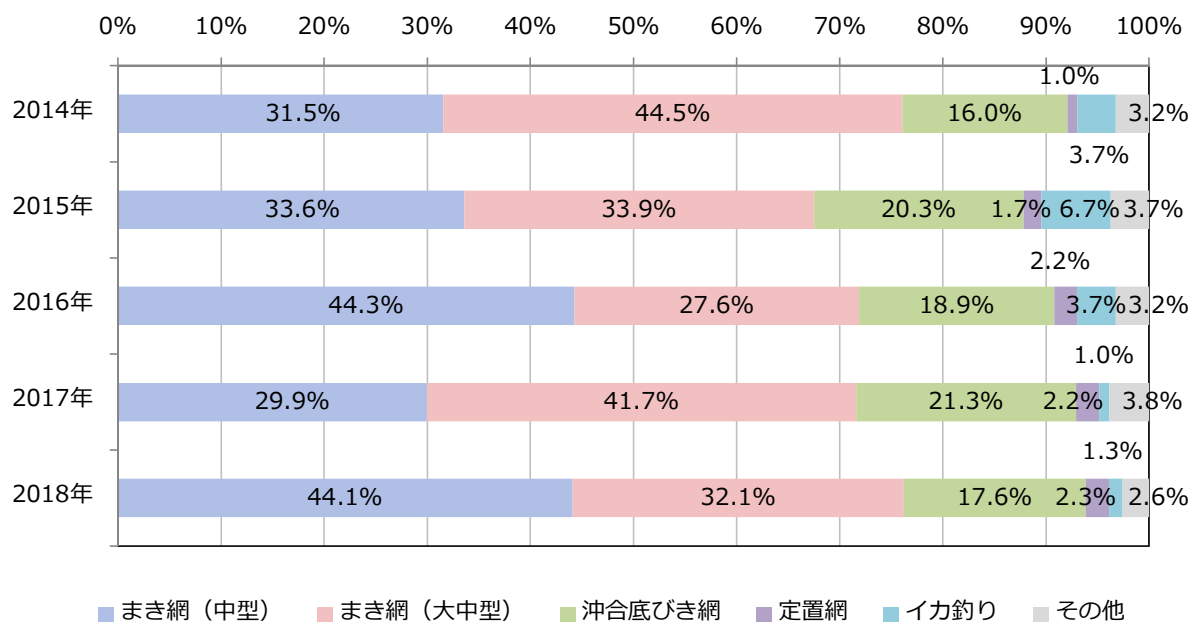
次に、漁業種別水揚量に着目すると、2018年（平成30年）は、まき網（中型）が9,283トンで最も多く、次いで、まき網（大中型）が6,767トン、沖合底びき網が3,706トンと続く。また、割合で見ると、まき網（大中型及び中型）が水揚量全体の約7割を占める結果となっている。

■ 漁業種別水揚量（単位:t）

種類	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
まき網(中型)	6,086	5,692	8,309	5,225	9,283
まき網(大中型)	8,593	5,752	5,179	7,269	6,767
沖合底びき網	3,086	3,446	3,550	3,720	3,706
定置網	189	294	417	384	479
イカ釣り	718	1,134	703	177	276
陸送	349	364	384	287	204
一本釣り	198	192	157	141	150
採貝藻	16	14	12	11	13
その他	60	65	51	233	176
合計	19,295	16,953	18,763	17,448	21,054

資料：浜田市水産業振興協会調べ

■ 漁業種別水揚量割合



資料：浜田市水産業振興協会調べ

注：漁業種別水揚量のうち、下位4種（陸運、一本釣り、採貝藻、その他）を「その他」に統合

1-2-5. 水産業の課題

水産業の課題として、水揚量及び魚価の低迷が続いている状況があるほか、操業している漁船の老朽化や少子高齢化に伴う漁業就業者の後継者不足等の問題もあり、水産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。また、沖合底びき網漁船の事業停止も重なり、更なる水揚量の減少が懸念されている。

浜田市では、「どんちっち三魚」、「山陰浜田港」、「浜田港四季のお魚」、「沖獲れ一番」といった、地元産水産物の高付加価値化（ブランド化）に向けた取組を推進しており、アジやノドグロといった魚種のブランド化が進んでいる一方、鮮魚の品質管理に関するルールの厳格化や効果的なブランド戦略の運用等において課題が生じている。

■ 「山陰浜田港」のロゴマーク

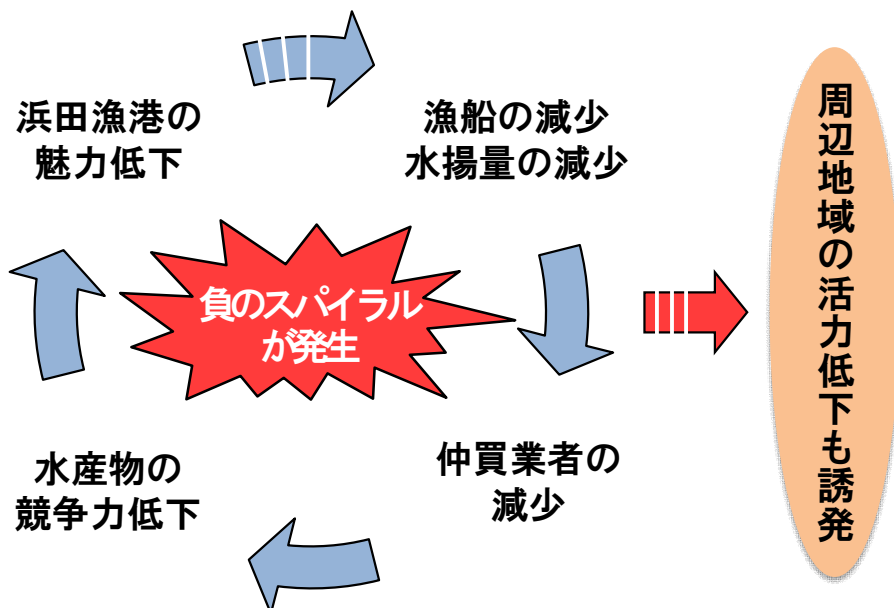


また、生産者・仲買人等の関係者間の連携が希薄といった課題もあり、水産業振興に向けた一体的な取組が実施できていない現状もある。

加えて、物流の側面では、輸送トラック便の不足等に伴い、浜田漁港全体の物流機能が脆弱化しているほか、冷凍冷蔵庫の不足による水産物のストック機能が低下していることも大きな課題となっている。

様々な課題が混在している状況では、浜田漁港のポテンシャルがさらに低下する可能性もあり、更には、浜田漁港を中心とした周辺地域の活力の低下を誘発することも懸念される。

■ 浜田漁港及び周辺地域の活力低下のメカニズム



1-2-6. 検討会議で抽出された課題

本計画の策定にあたり、水産業を取り巻く課題について、より詳細な状況把握を行うため、漁業生産者、仲卸事業者等を対象とした検討会議を以下のとおり全2回開催した。

実施日	出席者	内容
令和元年6月26日 13:00～15:00	まき網漁業生産者 沖合底びき網漁業生産者 漁業協同組合	• 漁業経営の実態
令和元年6月26日 15:10～17:10	仲卸事業者 水産加工事業者 小売・仲卸事業者 浜田市水産物ブランド化戦略会議	• 水産物の付加価値向上 • 水産物の販路拡大

①漁業経営の実態

(1) 担い手の減少と後継者確保

- 親族以外の第三者への事業承継等、後継者確保を進める必要がある。
- 現状では若手船員を確保できているが、外国人研修生を含む担い手確保を進める必要がある。
- 沖合底びき網漁業について、魚を選別するサイズが多いため、長時間労働となり船員の負担が大きい。

(2) 船舶更新、燃料高騰への対応

- 船舶の老朽化に対し、漁船のリース、中古船の確保で対応しているが、県内で調達できる中古船の情報が少ない。
- 漁船を新造する場合には造船所が4～5年先まで空きがない。
- 燃料単価の高騰により経営に悪影響が生じている。

(3) 資源減少への対応

- 浜田沖の漁場を含め、日本海全体の漁業資源は減少している。
- アワビの放流事業等、資源確保の取組みは有効であるため継続すべき。

②水産物の付加価値向上

(1) ブランド化事業の推進

- ブランド化に関する動きが漁業生産者や仲買人の間に浸透していない。
- どんちっちブランドに関する窓口を一本化し、情報を集約すべき。
- 沖合底びき網漁船で実施する「沖獲れ一番」ブランドは、一般のものに比べ1割程度高値で取引されている。
- 品質のバラつきを感じており、漁業生産者において鮮度管理に関する統一ルールの運用を徹底する必要がある。
- 今あるブランドを活かすことが重要。漁業生産者と仲買人が一緒になり、共有物である魚の価値を高めていく必要がある。
- 品質向上を目的として、漁業生産者、仲買人、島根県水産技術センター等関係者による定期的な意見交換会を持つと良い。
- 漁業生産者と仲買人の間で、鮮度・品質に関する価値観にズレがあると感じる。漁業生産者、仲買人ともに顧客の声を聞き入れ共通認識を持つべき。
- どんちっち三魚の内、カレイの差別化が課題。成分から特徴を出しにくい。カレイの塩干品は日本一の生産量。

(2) 競争力の強化

- 鮮度保持に向けた「神経メ」を行うのは、一部の船団に限定されている。
- まき網漁船の水揚げでは、選別（セレクトター販売）、スケール（トラックスケール販売）により魚価が異なり、魚価としては前者が優位。外来船が入港するのも選別が有ることがアドバンテージとなっている。地元船との競争回避等、水揚げの体制の整備が必要。

③水産物の販路拡大

- 沖合底びき網漁船の減少により、年間 5 億円程度の水揚げ高の減少が懸念される。
- 仲卸事業者の廃業による魚の売り先の減少が懸念される。
- 販売力のある仲買人がいることで魚価が上がり、漁港の魅力が高まる。漁港の魅力化に向けては仲買人の力づくりが必要。
- 水揚げした水産物を運ぶトラックが不足し、物流機能が脆弱。現在も和歌山県、三重県からトラックが来る状況。物流機能の向上に向けた運送業者の確保が必要。
- 水産物の貯蔵ができる冷凍冷蔵庫の整備が必要。
- 浜田漁港での一次加工専門の事業化は、漁獲量にバラつきがある中、原料の安定確保、稼働率の平準化が課題となり、個社での対応は難しい。

④その他の意見

- イカ釣り船等、外来船の誘致活動は浜田漁港の P R として今後も継続すべき。

1-2-7. 水産業振興に向けた取組

浜田市では、地元漁船の存続対策をはじめ、魚価の向上、水揚拡大、後継者の育成・確保を目的とした取組を実施しているほか、市場等の施設・設備の整備、浜田漁港エリアの活性化対策をハード・ソフト両側面から総合的に展開している。

①基幹漁業の構造改革の推進

(1) 沖合底びき網漁船（5ヶ統）代船対策

- 漁業構造改革総合対策事業（国事業）
…2013年（平成25年）4月より実証事業開始（1ヶ統）
- 浜田地域沖合底びき網漁業構造改革推進事業（県・市事業）国の事業に準拠
…2012年（平成24年）から事業化（4ヶ統）

(2) まき網漁船（2ヶ統）代船対策

- 代船対策は検討中（国の漁船リース事業の活用を検討）

②魚価の向上・魚食普及による販売力の強化

(1) 「山陰浜田港」ブランドの推進

- 「山陰浜田港」ブランドのPR（「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業）
- 山陰浜田港お魚料理教室の開催

(2) 水産ブランド「どんちっち」の推進（アジ・ノドグロ・カレイ）

- ブランド推進団体「浜田市水産物ブランド化戦略会議」

③水揚拡大対策

(1) 外来船誘致活動の実施

- 浜田漁港活用推進事業
…外来イカ釣り漁業団体等へ誘致活動

(2) 栽培漁業及び資源管理型漁業の推進

- 栽培漁業事業化促進事業
…ヒラメ稚魚放流（事業主体：（公社）島根県水産振興協会）
- 水産資源確保対策事業
…アワビ稚貝、稚ウニ放流（事業主体：JFしまね浜田支所）

④漁業後継者の育成・雇用の確保対策

- 若者漁業者確保支援事業
…学校新卒者又は卒業後3年以内の若手漁業者の確保
- ふるさと漁業研修生育成事業
…U・Iターン者対象
- 新規自営漁業者定着支援資金貸付制度
…自営漁業希望者対象
- 地域産業担い手育成支援業務
…地域おこし協力隊制度の活用

⑤市場施設、設備等の整備

(1) 高度衛生管理型荷さばき所の整備

- 7号荷さばき所（まき網用）
…2020年（令和2年）7月に供用開始予定
- 4号荷さばき所（沖合底びき網用）
…2022年度（令和4年度）中に供用開始予定

(2) 冷凍冷蔵庫の整備支援

- 整備を行う企業等に対する支援を実施し、水揚量の増加や水産物供給体制の充実を促進

⑥漁港エリアの活性化対策

(1) 瀬戸ヶ島埋立地の活用

- 輸出も見据えた新たな水産加工事業としての活用を目指し、事業実施の核となる企業を募集

(2) しまねお魚センターの活性化、公設水産物仲買売場のあり方の検討

- しまねお魚センターの土地・建物を取得し、老朽化した公設水産物仲買売場の機能を移設して活用

1-3. 浜田市の観光の現状と課題

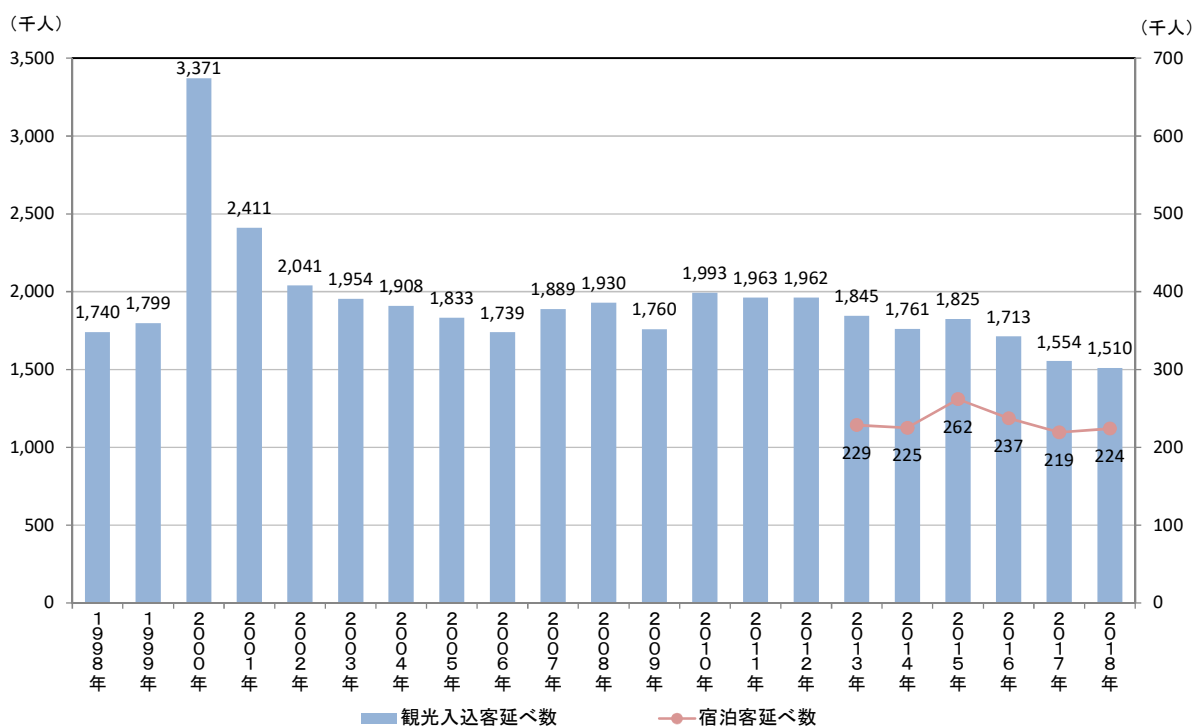
1-3-1. 観光入込客延べ数と宿泊客延べ数の推移

2018年（平成30年）における浜田市の観光入込客延べ数は約151万人であり、宿泊客延べ数は約23万人となっている。

観光入込客延べ数の推移に着目すると、2000年（平成12年）をピークに減少傾向に転じており、年によって多少の増減はあるものの、年々減少傾向にあることが見て取れる。なお、2000年（平成12年）と2001年（平成13年）の入込客数が突出して多い要因としては、「島根県立しまね海洋館アクアス」の開館が影響していると考えられる。

宿泊客延べ数は、2013年（平成25年）以降、約22万人～26.2万人の間を、ほぼ横ばいで推移している。

■ 観光入込客延べ数と宿泊客延べ数の推移



注：宿泊客数については、現在の集計方法となった2013年以降の数値のみ表示している。

資料：島根県観光動態調査

1-3-2. 宿泊者の内訳

浜田市を訪問する宿泊者は広島県在住者が最も多く、次いで島根県在住者が多い。これは、浜田市と広島県が高速道路で結ばれていることから交通の利便性が高く、広島県から訪問しやすくなっているためであると考えられる。また、東京都からの宿泊者数が毎年上位に位置しているが、これは、隣接する益田市の萩・石見空港が、羽田空港との空路を有しているため、東京都から定期的に宿泊者が来ていると考えられる。

■ 居住都道府県別の延べ宿泊者数の割合（日本人）

順位	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年	
1位	島根県	20.1%	島根県	17.4%	広島県	16.0%	広島県	17.3%	島根県	17.8%	広島県	14.8%
2位	広島県	17.6%	広島県	16.1%	島根県	15.5%	島根県	17.2%	広島県	15.3%	島根県	12.6%
3位	大阪府	7.7%	大阪府	9.5%	岡山県	7.4%	大阪府	7.4%	東京都	8.1%	東京都	9.4%
4位	東京都	5.6%	岡山県	5.0%	大阪府	7.2%	東京都	7.0%	兵庫県	7.5%	大阪府	7.3%
5位	鳥取県	4.5%	兵庫県	4.7%	東京都	5.8%	福岡県	6.8%	大阪府	6.6%	長野県	7.3%

資料：RESAS・観光マップ（2013-2018年）

1-3-3. 観光施設の分布

浜田市の主な観光施設の分布は、以下のとおりである。浜田漁港周辺に着目すると、しまねお魚センターをはじめ、多くの観光施設が立地している。沿岸部にも、多くの観光施設が立地している。しまね海洋館アクアスを含む石見海浜公園の入込客数が最も多く、石見置ヶ浦や海水浴場の入込客数も安定的に推移している。浜田市全域の釣りも入込客数の上位に位置していることから、浜田市にとって海が大きな観光資源になっていることがわかる。山間部にも、温泉地等の観光施設が立地しており、浜田市は、自然の観光資源にめぐまれた都市であるといえる。

■ 浜田市の主な観光施設の分布



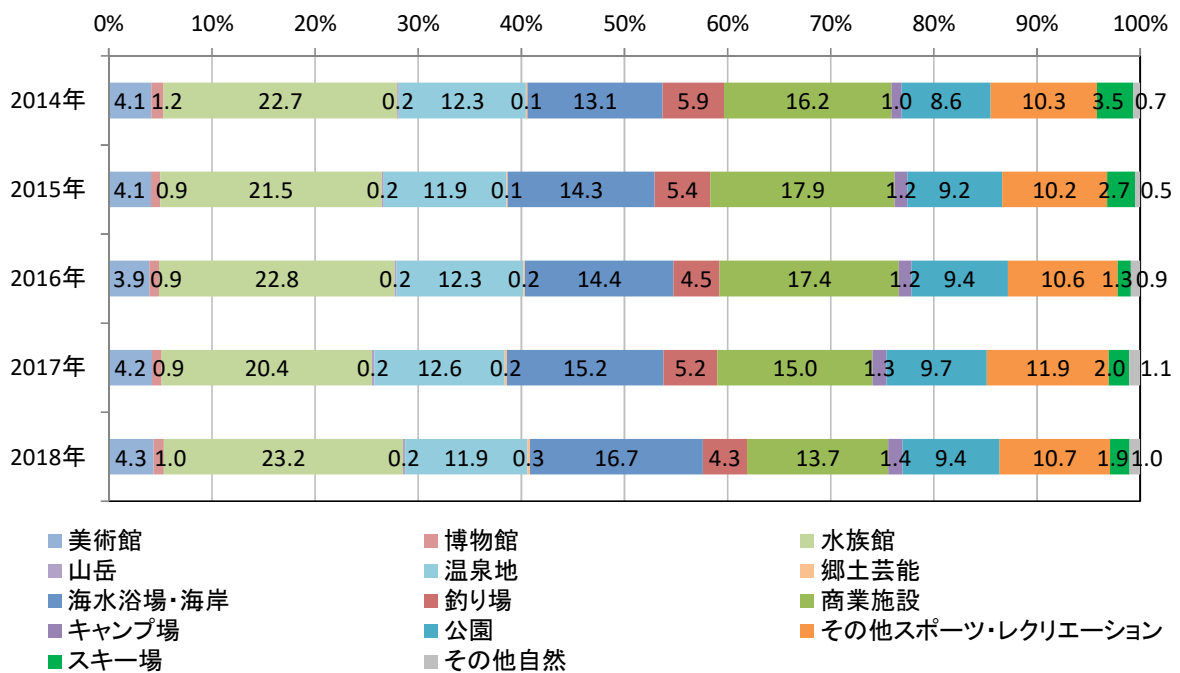
1-3-4. 入込客数と特徴的な観光資源

浜田市の施設別入込客数を下表のように分類すると、2018年（平成30年）では、水族館の割合が23.2%と最も高く、次いで、海水浴場・海岸が16.7%であった。

浜田市においては、海水浴をはじめとする海洋レジャーや水族館等、海に関連する観光スポットが複数存在しており、入込客の割合も高い傾向にある。この点については、浜田市における観光資源の大きな特徴であるといえる。

続いて、しまねお魚センターや道の駅ゆうひパーク三隅等の商業施設の割合が高く、13.7%であった。これらの商業施設は、浜田市の特産物を多く取り扱っており、浜田市の魅力発信にも大きく寄与していることから、今後の観光振興においても重要な側面を有していると考えられる。

■ 分類別に見た浜田市における観光入込客数



資料：島根県観光動態調査

■ 分類の詳細

No.	分類	施設名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1	美術館	浜田市世界子ども美術館	50,755	52,215	47,876	48,126	49,975
		石正美術館	17,216	17,011	15,085	12,718	10,176
2	博物館	三隅発電所ふれあいホール	18,606	14,808	13,344	12,058	13,034
		エクス和紙の館	752	780	1,606	1,504	1,304
3	水族館	アクアス(石見海浜公園)	373,525	366,274	364,003	295,342	322,618
4	山岳	三階山	3,050	3,310	3,240	3,330	2,770
5	温泉地	きんたの里	84,911	85,955	76,074	69,131	58,066
		美又温泉	64,991	55,959	56,864	55,567	52,648
		旭温泉	48,362	54,568	56,709	52,377	47,851
		コワ温泉	4,731	6,040	6,371	6,191	6,730
6	郷土芸能	石見の夜神楽週末公演	2,044	2,243	2,811	3,074	3,577
7	海水浴場・海岸	海水浴場(石見海浜公園)	52,012	70,586	67,721	64,607	67,173
		石見畳ヶ浦/国府海岸(国府・畳ヶ浦海水浴場 他)	81,320	83,250	78,210	76,350	83,280
		浜田海岸(浜田海岸海水浴場 他)	76,140	81,480	76,130	72,010	77,030
		折居海岸(折居海岸海水浴場 他)	3,490	3,860	3,790	3,850	3,920
		三隅海岸(三隅海岸海水浴場)	3,450	3,700	3,350	3,000	1,800
8	釣り場	釣り(三隅海岸)	2,230	1,540	1,550	1,660	1,400
		浜田市全域釣り	95,770	90,530	69,990	74,390	58,350
9	商業施設	しまねお魚センター	147,638	178,076	154,454	129,837	103,994
		道の駅ゆうひパーク三隅	119,828	126,652	122,686	88,099	86,667
10	キャンプ場	キャンプ場(石見海浜公園)	16,757	20,867	19,595	19,276	19,452
11	公園	石見海浜公園(アクアス、海水浴場、キャンプ場以外)	142,326	156,513	149,231	141,025	130,677
12	その他スポーツ・レクリエーション	かなぎウエスタンライディングパーク	31,030	31,995	30,861	35,045	28,459
		アクアみすみ	65,950	67,216	69,622	70,157	68,568
		ふるさと体験村	26,351	25,904	21,896	19,638	4,920
		浜田市ゴルフ場	46,471	48,804	47,442	47,029	47,275
13	スキー場	アサヒテングストーン	58,026	45,581	20,377	28,367	26,567
14	その他自然	三隅公園	10,820	8,530	14,180	15,320	14,040

注:「分類」は、観光動態調査における「小分類」に該当

資料: 島根県観光動態調査

1-3-5. 観光誘客の課題

浜田市は、石見地域の中央に位置しており、浜田自動車道路や山陰自動車道により交通アクセスの利便性が高い反面、観光においては、滞在時間が短くなり、立ち寄りスポットをどう増やしていくかが課題であり、『石見神楽』『食』『温泉』を活用した滞在型観光の推進が求められている。

また、2018年度(平成30年度)から、外国船籍のクルーズ客船の入港が始まるなか、既存の観光事業者や団体・市民が連携したインバウンド対応を含む受入体制の充実や観光施設の整備が求められている。

更に、観光施設が市内に点在するなか、周遊を促すための公共交通網を充実させる必要がある。

浜田漁港周辺エリアは、浜田市の中心市街地や浜田城資料館、浜田城跡、日本遺産に認定された北前船寄港地『外ノ浦』などの観光スポットに近接しており、商港、漁港、観光施設が一体となった「海」に関する機能が集積している。

今後、新たに整備される山陰浜田港公設市場は、浜田市を訪れる観光客と買い物にきた市民とが日常的に集う場所になる可能性を持っており、観光振興を図るうえにおいても重要な拠点施設として期待される。

1-3-6. 観光振興に向けた取組

浜田市では、観光振興に向け一般社団法人浜田市観光協会と浜田市が連携して歴史、文化、自然といった地域資源を活かした観光振興の事業を実施している。

また、2019年度（令和元年度）においては、「歴史・文化の再認識と次世代への継承」と「交流人口・関係人口の拡大」を目的とした浜田開府400年祭記念事業を行っている。

事業主体	主な事業	特徴
浜田市	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興事業 石見神楽振興事業 石見神楽定期公演推進事業 浜田の五地想ものがたり推進事業 観光協会助成事業 合宿等誘致事業 	<ul style="list-style-type: none"> 島根県東部と比較して集客力のある観光資源が少ないため、石見観光振興協議会や周辺市町と連携し、広域観光にも取り組んでいる。 浜田市広島PRセンターと連携し、近接する最大の都市である広島からの観光誘客を図っている。 石見神楽による滞在型観光を推進するため、週末夜神楽公演、出張上演にも力を入れている。
一般社団法人 浜田市観光協会	<ul style="list-style-type: none"> 観光客誘致促進事業 (浜っ子まつり等) 観光客受入整備事業 (国府海水浴場管理運営等) 観光連携・宣伝事業 (観光情報発信(はまナビ、石見神楽)等) 市民サロン運営事業 (観光案内、特産品販売等) 	<ul style="list-style-type: none"> 浜田市からの補助金や会員からの会費収入等を基に観光誘客事業に取り組んでいる。 JR浜田駅1階市民サロンに特産品販売所と観光案内所を設け、観光客の案内業務の充実を図っている。 「はまナビ」を観光協会のポータルサイトとして、SNSも活用しながら様々な観光情報の発信を行っている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 【浜田開府400年祭実行委員会】 浜田開府400年記念イベント 「はまだ市民ガイド」養成 「全国の浜田さん、いらっしやい」事業 開運・なんでも鑑定団 出張鑑定 	<ul style="list-style-type: none"> 2018年(平成30年)に官民で組織する実行委員会を立ち上げ浜田開府400年祭に係る事業の企画立案や運営を行っている。 観光交流課内に開府400年推進室を設置し、実行委員会の事務局を所管するとともに、機運醸成のため、市民ガイド養成や出前講座を実施している。

